

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

大月 玄之*・応和 恵子**・木村 勢津***・高橋 隆二****
 長谷川 敏*****・三原 重行*・山本 皖惟****・弓場 徹****

Correlation between the Length of Learning of Music Undergraduate Students, Faculty of Education and their Ability to Transcribe Music in Notes

Motoyuki OHTSUKI・Keiko OHWA・Setsu KIMURA・Ryuji TAKAHASHI
 Bin HASEGAWA・Shigeyuki MIHARA・Kiyotada YAMAMOTO・Tohru YUHBA

1. はじめに

教員養成課程における音楽基礎領域の学習、わけてもソルフェージュ学習のカリキュラム内容およびクラス編成や、入学選抜試験におけるソルフェージュの在り方などを検討、改善する手掛かりを得るため、教員養成課程に入学したばかりの音楽専攻1年次学生を対象として、本研究は行なわれた。

本研究に先立ち、三重、島根両大学教官有志の共同研究により、教員養成課程所属音楽専攻学生と音楽専門系所属学生との聴音書取能力に関する比較研究を実施して、すでにいくらかの知見を得ることができた。その成果は『教員養成大学音楽専攻学生の音楽能力測定と比較評価』にまとめ報告してきたが、その研究を通し、次の3つの問題が今後の課題として残された。^(註1)

- (1) データの増加と蓄積をはかり信頼性を高めるため、調査対象をひろげる。
- (2) サンプル数の不均衡をただすため、小学課程音楽専攻学生を研究対象に加える。
- (3) 音楽能力形成のプロセスを把握するため音楽学習歴の調査を取り入れる。

これらの課題意識にたつて、小学課程所属音楽専攻学生を含む調査対象に規模拡充をはかり、か

つ簡易な聴音書取能力テストに加え質問紙法による音楽学習歴調査を行なって、音楽学習の開始時期・期間・専攻(楽器)分野等と、書取能力形成との関連の研究考察を試みるべく、5大学8名の共同研究を実施した。

2. 調査対象者と実施時期

1993年度に入学した国立5大学の教育学部音楽専攻1年次学生119名を調査対象者として1993年4月中旬から下旬にかけ、それぞれの大学の教室において実施した。音楽学習歴調査は、聴音書取能力テストを実施したあと同じ時間内に行なった。調査対象者の所属課程は[表1]である。

[表1] 対象学生の所属大学・課程

	小学課程	中学課程	特設課程	計(名)
茨城大学	9	8	—	17
大分大学	—	8	—	8
愛媛大学	—	5(1)	30	35(1)
島根大学	6	4	31(7)	41(7)
三重大学	13	5	—	18
計(名)	28	30(1)	61(7)	119(8)

() は男子学生数

*島根大学 **大分大学 ***愛媛大学 ****三重大学 *****茨城大学

3. 音楽学習歴調査と集計手順

3-A.

質問紙により〔表2〕のようなアンケート調査を行なった。

3-B.

音楽学習の開始時期・期間の集計では、半年(0.5年)を最小単位とし、半年未満のものについては適宜繰り上げ切り捨てを行なった。

Q3の集計においては、学習分野を次の9つに分類して行なった。

- (1) 鍵盤楽器 (電子オルガンを含む)
- (2) 声楽 (3) 木管楽器 (4) 金管楽器
- (5) 弦楽器 (6) 箏 (7) 作曲
- (8) 合奏 (打楽器および合唱を含む)
- (9) その他 (ソルフェージュなど)

なお相関分析は<社会情報サービス>統計解析シリーズ“マルチ統計”(ver. 4.1)を用い、コンピュータ処理を行なった。

4. 聴音書取能力テストと評定方法

4-A.

ピアノ演奏により次のような〔聴音課題〕の書取テストを実施した。

テストの演奏回数と時間配分は、次のように行なった。

① [単旋律 ハ長調 4/4拍子 8小節]

(各演奏の間には10秒の休止を置く)

- 全体通奏 …… 1回
- 1～4小節 …… 3回
- 全体通奏 …… 1回
- 5～8小節 …… 3回
- 全体通奏 …… 1回

(1分の間隔をおいた後②を実施する)

② [単旋律 ト長調 3/4拍子 12小節]^(註2)

(各演奏の間には10秒の休止を置く)

- 全体通奏 …… 1回
- 1～4小節 …… 3回
- 1～8小節 …… 1回
- 5～8小節 …… 3回
- 5～12小節 …… 1回
- 9～12小節 …… 3回
- 全体通奏 …… 1回

(1分の間隔をおいた後③を実施する)

③ [四声体和声 ハ長調 2/2拍子 8小節]

(各演奏の間には15秒の休止を置く)

全体通奏 …… 7回

(1分の間隔をおいた後、回収し終了)

なお、テストの方式については、テストの前に、あらかじめ説明を行なって周知させたのち実施した。

4-B.

評定方法

- (1) テスト全体 (課題①②③)
- (2) 旋律 (課題①②)
- (3) 四声体和声 (課題③) の3つの角度から評価測定を行ない、それぞれ10点満点で評定値を出した。

テストの評定は、先に誤記や空白部分を赤鉛筆でチェックした後、評定者計10名によりA(=2), B(=1), C(=0), の3段階で評点を出し、その合計に0.5を乗じ、端数を四捨五入して平均値を出した。

なお、赤入れチェックは、公平を保つためすべて同一人が行ない、チェック基準と赤入れ作業に揺れが生じるのを極力回避するよう心掛けた。また、評定基準の変動を避けるべく、1993年6月15日、一括集中して同じメンバーにより評価測定を行なった。評定作業には約4時間を要した。^(註3)

5. 調査結果

5-A.

音楽学習歴調査

イ. 全対象者119名のソルフェージュ学習歴調査(Q1)の結果は次の通りであった。

- ① はい (有) …… 113名
- ② いいえ (無) …… 6名

ロ. Q1で、①と答えた113名のソルフェージュ学習開始年令および学習期間(Q2A)の平均は次の通りであった。

- 学習開始年令 (平均) …… 13.061才
- 学習期間 (平均) …… 4.159年

113名の開始年令、学習期間分布は〔図1〕〔図2〕の通りであった。

ハ. ソルフェージュ学習歴のある113名のうち、週平均4時間以上の学習期間(Q2B)を保有す

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

[表2] 音楽学習歴調査表

Q1. 一般の学校の授業以外に、ソルフェージュ（新曲視〈唱〉奏、コールユーブンゲン、聴音、リズム訓練等）のレッスンを受けたことがありますか。

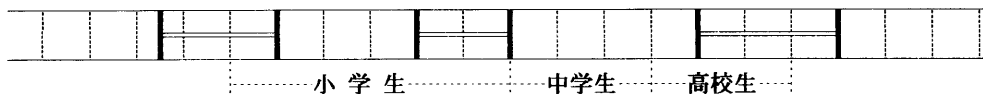
（音楽高校や音楽コースにいた人は、そこでの授業も含めて答えて下さい。）

- ① はい ② いいえ

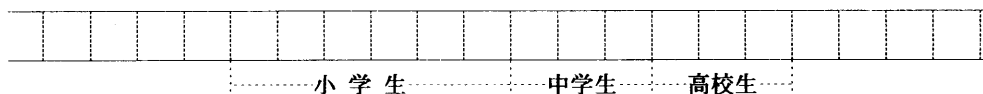
Q2. ①と答えた人は、次の間に答えて下さい。（②と答えた人は、Q2をとばしてQ3へ）

A, ソルフェージュのレッスンを受けた期間を、例にならい記入して下さい。

[例] 年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

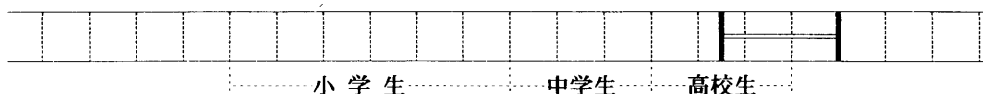


年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

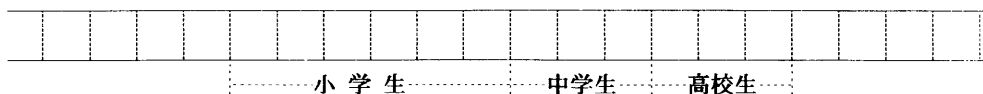


B, 週平均で4時間以上（自習の時間を含む）をソルフェージュの学習にかけた期間があったら、例にならい記入して下さい。

[例] 年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

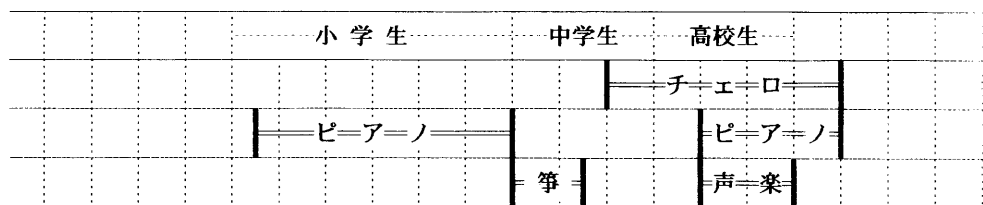


年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

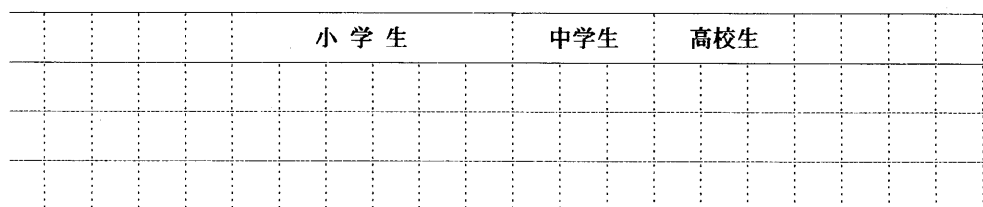


Q3. 音楽学習の開始時期と、習った楽器（分野）および期間を、例にならい記入して下さい。

[例] 年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22



年 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22



[聴音課題]

①

②

③

る者の調査結果は次の通りであった。^(註4)

学習保有者数 65名
 学習開始年令 (平均) 16.677才
 学習期間 (平均) 1.523年

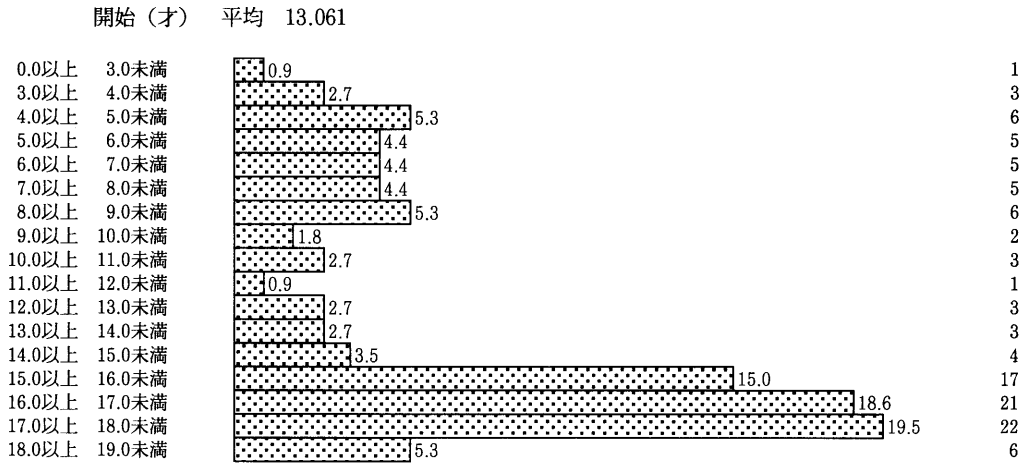
学習開始年令は、65名中60名 (92.3%) が15才以後とりわけ受験直前に集中している。学習期間の分布を示すと、[図3] の通りである。

ニ、学習楽器 (分野) 別開始年令および学習期間 (Q3) は、[表3] の通りであった。

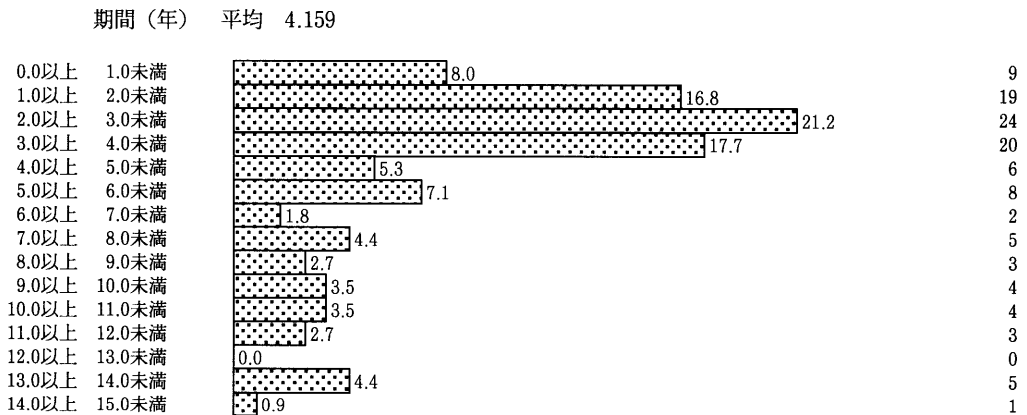
学習者の比較的多い分野の開始年令・期間の分布を図示すると、鍵盤楽器 [図4] [図5] 声楽 [図6] [図7] 木管楽器 [図8] [図9] 金管楽器 [図10] [図11] の通りである。

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

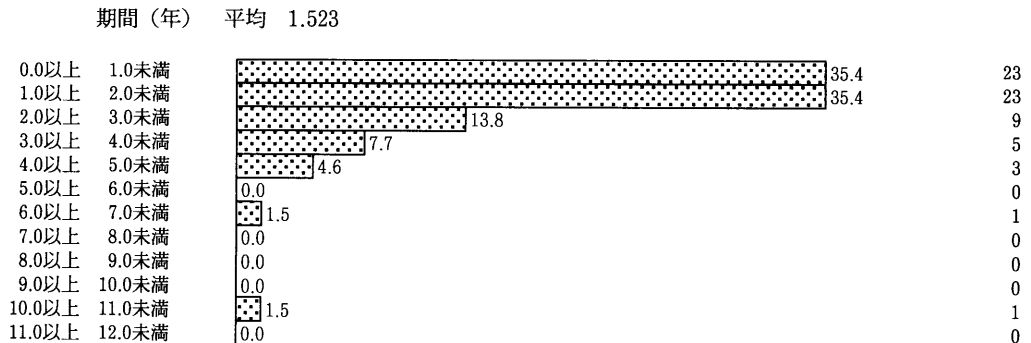
[図 1] ソルフエージュ (Q 2 A)



[図 2] ソルフエージュ (Q 2 A)

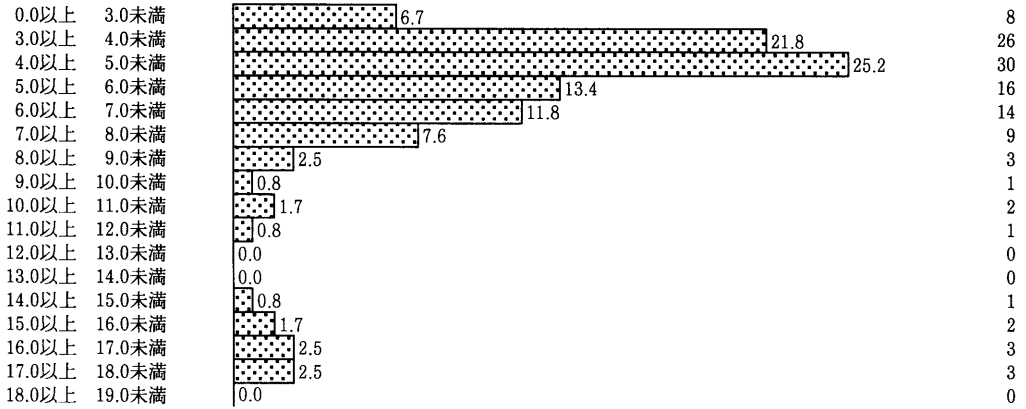


[図 3] ソルフエージュ (Q 2 B)



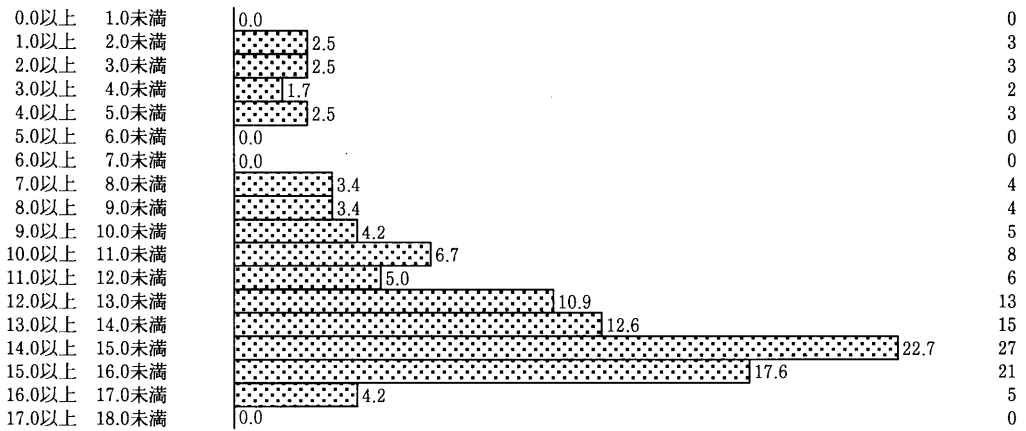
[図 4] 鍵盤楽器

開始（才） 平均 5.794



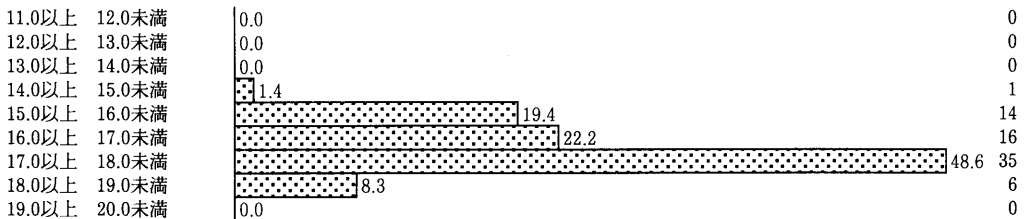
[図 5] 鍵盤楽器

期間（年） 平均 11.975



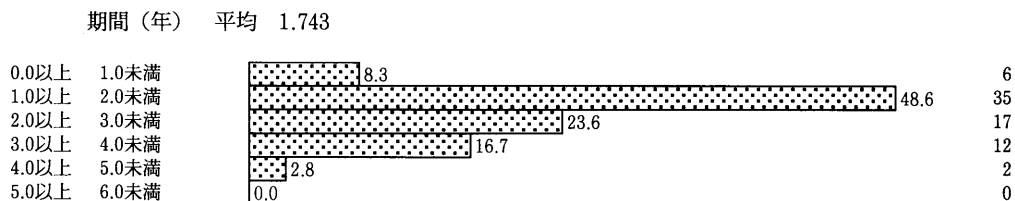
[図 6] 声 楽

開始（才） 平均 16.743

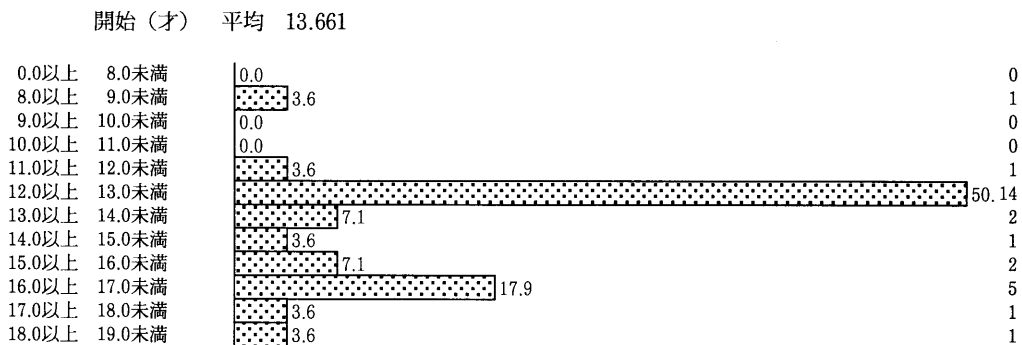


教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

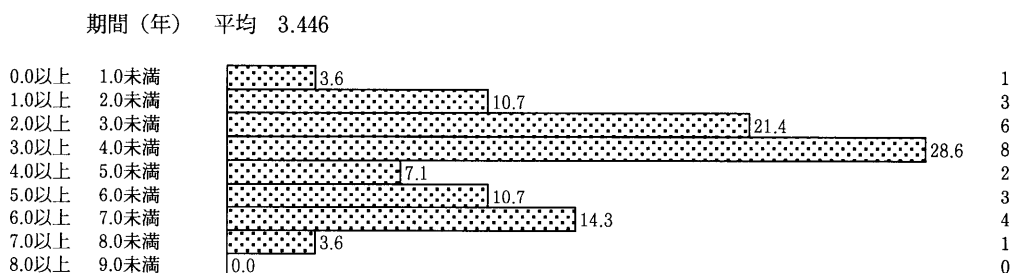
[図 7] 声 楽



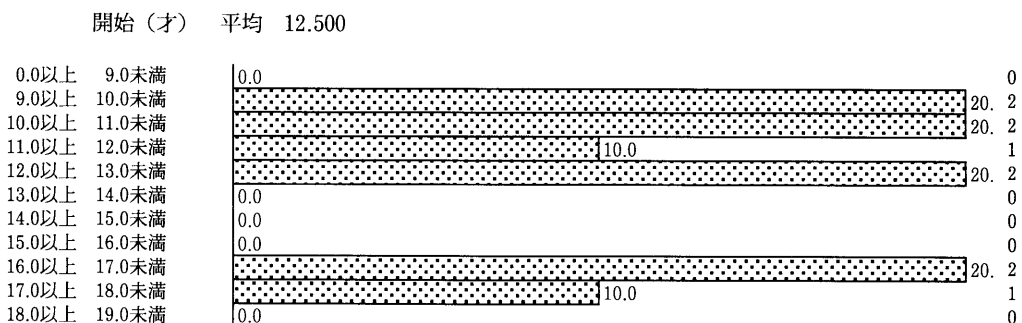
[図 8] 木管楽器



[図 9] 木管楽器

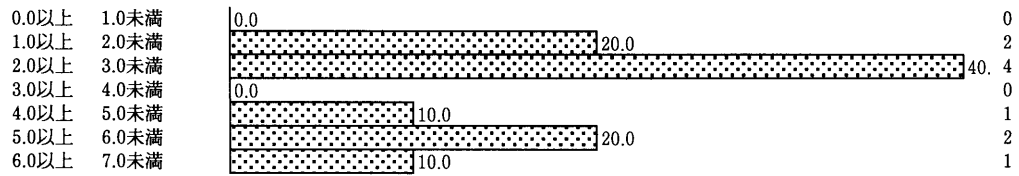


[図10] 金管楽器



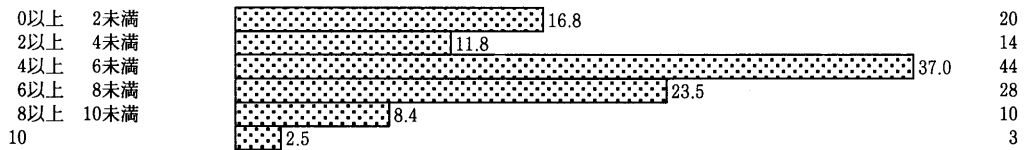
[図 11] 金管楽器

期間 (年) 平均 3.150



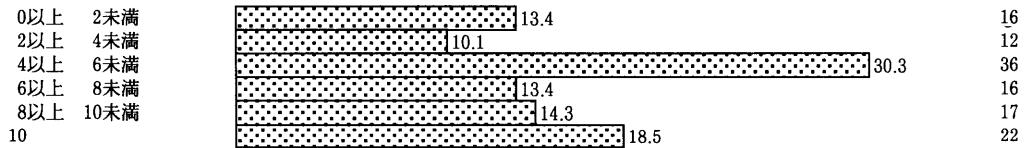
[図 12] 響取総合

評定値 平均 4.512 標準偏差 2.551



[図 13] 響取旋律

評定値 平均 5.689 標準偏差 3.223



[図 14] 響取和声

評定値 平均 2.966 標準偏差 2.819



[表 3]

	(1)鍵盤楽器	(2) 声 楽	(3)木管楽器	(4)金管楽器	(5)弦楽器	(6) 箏	(7) 作 曲	(8) 合 奏	(9)その他
学習者数	119	72	28	10	2	3	2	9	2
開始年齢	5.794	16.743	13.661	12.500	13.083	10.000	9.000	11.611	16.333
学習期間	11.975	1.729	3.446	3.150	2.167	5.833	6.500	4.889	2.167

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

〔表4〕総合（課題①②③）

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
小学課程	0	1	2	3	3	4	4	3	1	2	5	28
茨城	0	1	0	0	3	2	1	1	0	1	0	9
島根	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4	6
三重	0	0	1	3	0	1	3	2	1	1	1	13
中学課程	1	0	1	1	3	7	8	4	1	3	1	30
茨城	0	0	0	1	0	2	2	1	1	1	0	8
愛媛	0	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	5
大分	0	0	1	0	2	2	3	0	0	0	0	8
島根	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	4
三重	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	5
特音課程	2	4	2	8	10	10	11	2	3	3	6	61
愛媛	0	1	0	4	8	5	8	1	2	1	0	30
島根	2	3	2	4	2	5	3	1	1	2	6	31
合計	3	5	5	12	16	21	23	9	5	8	12	119

〔表5〕旋律（課題①②）

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
小学課程	3	2	1	3	2	4	4	2	0	4	3	28
茨城	0	2	0	2	2	1	1	0	0	1	0	9
島根	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	6
三重	2	0	1	1	0	2	3	2	0	2	0	13
中学課程	3	3	0	2	5	8	3	1	4	0	1	30
茨城	1	0	0	1	1	3	1	0	1	0	0	8
愛媛	0	0	0	1	2	0	1	0	1	0	0	5
大分	1	2	0	0	1	2	0	1	1	0	0	8
島根	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	4
三重	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	5
特音課程	16	7	4	4	0	15	2	1	4	1	7	61
愛媛	8	4	2	4	0	9	1	1	0	0	1	30
島根	8	3	2	0	0	6	1	0	4	1	6	31
合計	22	12	5	9	7	27	9	4	8	5	11	119

5-B.

聴音書取能力テスト

イ. テストの評定値は〔表4〕〔表5〕〔表6〕、
評定平均値は〔表7〕の通りであった。

ロ. 対象者全体の分布を示すと〔図12〕〔図13〕
〔図14〕の通りである。

6. 考察と今後の課題

6-A.

ソルフェージュ学習経験を有する者の書取テスト評定平均値は〔表8〕の通りで、a, b, c, d, のいずれも、学習未経験の者よりかなり高い。ソルフェージュ学習が書取能力に大きく影響するのがわかる。

〔表6〕和声（課題③）

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	計
小学課程	1	1	0	2	1	4	4	2	2	4	7	28
茨城	1	0	0	0	0	2	1	1	1	1	2	9
島根	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	6
三重	0	1	0	1	1	1	3	1	1	1	3	13
中学課程	1	0	0	2	0	2	4	3	5	4	9	30
茨城	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	3	8
愛媛	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	5
大分	0	0	0	2	0	1	2	1	2	0	0	8
島根	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	4
三重	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	5
特音課程	4	0	1	4	2	9	6	1	10	11	13	61
愛媛	0	0	0	1	1	4	4	1	5	8	6	30
島根	4	0	1	3	1	5	2	0	5	3	7	31
合計	6	1	1	8	3	15	14	6	17	19	29	119

〔表7〕評定平均値

	総合	旋律	和声
小学課程	4.035	4.821	3.178
茨城	4.888	6.000	3.333
島根	2.333	2.666	2.333
三重	4.230	5.000	3.461
中学課程	4.233	5.466	2.433
茨城	3.875	5.500	1.500
愛媛	3.600	5.000	1.200
大分	5.250	5.375	4.250
島根	2.750	3.500	1.250
三重	5.000	6.400	3.200
特音課程	4.868	6.196	3.131
愛媛	5.000	7.066	2.333
島根	4.741	5.354	3.903
全対象者	4.512	5.689	2.966

6-B.

ソルフェージュ（Q2）も含めた音楽学習の主な開始年令・学習期間・聴音書取能力テスト評定値の単相関係数は〔表9〕、〔表10〕は、対象サンプル数表である。^(註5)

調査対象全体でみると、音楽学習歴調査の結果と聴音書取能力テストとの間に有意な相関関係を見出せないが、ソルフェージュ学習（Q2A）開始年令を

(1) 6才未満

(2) 6才以上 12才未満

(3) 12才以上 15才未満

(4) 15才以後（未経験の者を含む）

の4群に分けた書取評定平均値〔表11〕で比較すると、和声を除く書取能力の発達には、比較的早期のソルフェージュ学習が効果的であることを示している。

音高把握のほかにある程度の分析的把握を必要とする四声体和声の書取には、知的発達段階からみて、中学生の頃が学習に効率のよい時期と思われる。

6-C.

ソルフェージュ（Q2A）の学習期間を、

(1) 10年以上

(2) 6年以上10年未満

(3) 6年未満（未経験の者を含む）

の3群に分け、書取評定平均値と比較したのが〔表12〕である。学習期間6年を境界として、6年以上と未満の群との間に書取評定値の明らかな差が生じている。ただし、学習期間10年以上の群では逆に6年以上10年未満の群よりも評定平均値は低くなっており、学習期間が長ければ長いほど良好とは言えない結果となっている。ソルフェージュ学習の中断が介在しても、必ずしも書取能力の維持、もしくは向上を妨げないものと推測される。

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

[表 8]

	a, 総合	b, 旋律	c, 和声	d, a + b + c
ソルフェ (Q1) 経験 有	4.708	5.929	3.080	13.717
ソルフェ (Q1) 経験 無	0.833	1.167	0.833	2.833

[表 9] 単相関係数表

	書 取			ソルフェージュ (Q2 A)		ソルフェージュ (Q2 B)	
	総合	旋律	和声	開始	期間	開始	期間
書 取 総合	1.000	0.877	0.750	-0.181	0.226	-0.225	0.266
書 取 旋律	0.877	1.000	0.459	-0.170	0.186	-0.185	0.113
書 取 和声	0.750	0.459	1.000	-0.148	0.195	-0.207	0.293
ソルフェ 開始 (Q2 A)	-0.181	-0.170	-0.148	1.000	-0.835	0.127	-0.273
ソルフェ 期間 (Q2 A)	0.226	0.186	0.195	-0.835	1.000	-0.214	0.399
ソルフェ 開始 (Q2 B)	-0.225	-0.185	-0.207	0.127	-0.214	1.000	-0.488
ソルフェ 期間 (Q2 B)	0.266	0.113	0.293	-0.273	0.399	-0.488	1.000
鍵盤 開始	-0.166	-0.273	0.028	0.231	-0.182	0.071	0.060
鍵盤 期間	0.241	0.329	0.039	-0.241	0.241	-0.141	0.035
声 楽 開始	-0.050	-0.034	-0.044	0.062	-0.158	-0.061	-0.454
声 楽 期間	0.011	0.009	0.001	-0.061	0.169	0.064	0.504
木 管 開始	-0.134	-0.303	0.243	0.032	-0.189	0.123	-0.123
木 管 期間	0.001	-0.063	-0.084	0.121	0.173	-0.098	0.098
金 管 開始	-0.445	-0.515	-0.256	0.416	-0.124	0.470	-0.235
金 管 期間	0.481	0.382	0.469	-0.390	0.362	-0.277	0.411

	鍵盤楽器		声 楽		木管楽器		金管楽器	
	開始	期間	開始	期間	開始	期間	開始	期間
書 取 総合	-0.166	0.241	-0.050	0.011	-0.134	0.001	-0.445	0.418
書 取 旋律	-0.273	0.329	-0.034	0.009	-0.303	-0.063	-0.515	0.382
書 取 和声	0.028	0.039	-0.044	0.001	0.243	-0.084	-0.256	0.469
ソルフェ 開始 (Q2 A)	0.231	-0.241	0.062	-0.061	0.032	0.121	0.416	-0.390
ソルフェ 期間 (Q2 A)	-0.182	0.241	-0.158	0.169	-0.189	0.173	-0.124	0.362
ソルフェ 開始 (Q2 B)	0.071	-0.141	-0.061	0.064	0.123	-0.098	0.470	-0.277
ソルフェ 期間 (Q2 B)	0.060	0.035	-0.454	0.504	-0.123	0.098	-0.235	0.411
鍵盤 開始	1.000	-0.909	-0.032	0.133	0.214	0.188	0.266	-0.642
鍵盤 期間	-0.909	1.000	0.021	-0.116	-0.270	-0.201	-0.452	0.697
声 楽 開始	-0.032	0.021	1.000	-0.833	0.265	0.245	-0.689	-0.113
声 楽 期間	0.133	-0.116	-0.883	1.000	-0.265	-0.245	0.753	0.045
木 管 開始	0.214	-0.270	0.265	-0.265	1.000	-0.440	××	××
木 管 期間	0.188	-0.201	0.245	-0.245	-0.440	1.000	××	××
金 管 開始	0.266	-0.452	-0.689	0.753	××	××	1.000	-0.469
金 管 期間	-0.642	0.697	-0.113	0.045	××	××	-0.469	1.000

[表10] サンプル数表

	書 取			ソルフェージュ (Q2A)		ソルフェージュ (Q2B)	
	総合	旋律	和声	開始	期間	開始	期間
書 取 総合	119	119	119	113	113	65	65
	119	119	119	113	113	65	65
	119	119	119	113	113	65	65
ソルフェ 開始 (Q2A)	113	113	113	113	113	65	65
	113	113	113	113	113	65	65
ソルフェ 開始 (Q2B)	65	65	65	65	65	65	65
	65	65	65	65	65	65	65
鍵 盤 開始	119	119	119	113	113	65	65
	119	119	119	113	113	65	65
声 楽 開始	72	72	72	70	70	42	42
	72	72	72	70	70	42	42
木 管 開始	28	28	28	28	28	16	16
	28	28	28	28	28	16	16
金 管 開始	10	10	10	9	9	8	8
	10	10	10	9	9	8	8

	鍵盤楽器		声 楽		木管楽器		金管楽器	
	開始	期間	開始	期間	開始	期間	開始	期間
書 取 総合	119	119	72	72	28	28	10	10
	119	119	72	72	28	28	10	10
	119	119	72	72	28	28	10	10
ソルフェ 開始 (Q2A)	113	113	70	70	28	28	9	9
	113	113	70	70	28	28	9	9
ソルフェ 開始 (Q2B)	65	65	42	42	16	16	8	8
	65	65	42	42	16	16	8	8
鍵 盤 開始	119	119	72	72	28	28	10	10
	119	119	72	72	28	28	10	10
声 楽 開始	72	72	72	72	9	9	5	5
	72	72	72	72	9	9	5	5
木 管 開始	28	28	9	9	28	28	1	1
	28	28	9	9	28	28	1	1
金 管 開始	10	10	5	5	1	1	10	10
	10	10	5	5	1	1	10	10

[表11]

	a, 総合	b, 旋律	c, 和声	d, a + b + c
(1) 6才以前 (15名)	5.533	6.867	4.000	16.400
(2) 6~12才 (22名)	5.182	6.500	3.318	15.000
(3) 12~15才 (10名)	5.100	6.400	4.300	15.800
(4) 15才以後 (72名)	4.014	3.153	2.458	9.625

教員養成大学音楽専攻学生の音楽学習歴と書取能力との相関

6-D.

書取能力評定値の和（総合+旋律+和声）が25以上の11名と、2以下の14名のソルフェージュ（Q2A）開始年令と学習期間の平均値を比較したものが〔表13〕である。ソルフェージュ同様に鍵盤楽器の学習開始年令・期間も、書取能力の発達に大きな相関を有している。

書取能力の発達を考察するには、先に行なった『教員養成大学音楽専攻学生の音楽能力測定と比較評価』において、鍵盤楽器専攻学生の評定値が他専攻学生の評定値より高位であったことと重ねあわせ、鍵盤楽器、特にピアノ学習の在り方が重要な鍵をもっていると言えよう。^(註6)

6-E.

鍵盤楽器学習開始年令が15才以後であったのは8名（6.723%）であるが、〔表14〕から分かるように和声書取評定値は、全体の評定平均値よりも高く、6-Bでも述べたように和声の書取が、旋律の書取能力形成とは異なる要因を有するのを示していると言えよう。

6-F.

大学間に、書取能力評定値の差が大きい。その原因としては、

(1) 大学がおかれている地域の条件に関連し音

楽大学との併願などの受験動向が反映。

(2) 入試科目として聴音書取テストの有無。

等が、大きく影響しているものと推測できる。

大学間の差が生じる原因をより明確に把握するため、併願受験などの実態調査も併せて行なうことが今後の課題の一つと言えよう。

6-G.

同じ大学の同じ課程の内部にも書取能力評定値の分散が大きく存在する。この原因として、大学入試制度の多様なあり方との関連が大きいと考えられる。すなわち、先にあげた併願受験のほか、同一課程内に、推薦入試による入学、分割入試による前期・後期入学など、多様な入試方法で入学した学生が混在する大学が増えて居り、その結果、書取能力にも大きいバラツキがみられるものと考えられる。

入学後の授業の在り方を考える上でも、今後さらに、内容や難易度も考慮に入れた入試方法別の比較研究を行なう必要がある。

6-H.

学習期間において、声楽とソルフェージュとの高い相関がある三重大（0.843）大分大（0.819）茨城大（0.701）に比べ、特設課程をもつ島根大（0.475）愛媛大（0.029）には明らかな差のある

〔表12〕

	a, 総合	b, 旋律	c, 和声	d, a + b + c
(1) 10年以上 (13名)	5.615	6.385	4.154	16.154
(2) 6～10年 (14名)	5.714	7.214	4.357	17.286
(3) 6年未満 (92名)	4.174	5.359	2.587	12.120

〔表13〕

	ソルフェージュ (Q2A)		鍵盤楽器	
	開始	期間	開始	期間
評定値 25以上 (11名)	10.363	6.909	5.409	10.545
評定値 2以下 (14名)	13.650	3.550	9.000	8.000

⇒〔表14〕

	a, 総合	b, 旋律	c, 和声	d, a + b + c
開始15才以後 (8名)	3.375	3.625	3.125	10.125
全体平均値 (119名)	4.512	5.689	2.966	13.168

ことが判明した。コールユーブンゲンや新曲の学習を含む入試準備のソルフェージュ指導が、声楽の教師によって行なわれることが多い地域の実状を示しているものと思われる。

6-I.

聴音課題の難易度が、今回の調査対象者のソルフェージュ学習の内実と乖離した水準ではなかったか否か、また教員養成課程学生の能力テストとして妥当なものであったか否かも含め、研究継続のためには、さらに吟味検討を行なうべきであろう。

6-J.

音楽学習歴調査アンケートの回答が、回答者の主観的判断、しかも時には曖昧な記憶に基づいた回答から集計される場合もあり得るのは、この種の調査の宿命でもあろう。だが集計結果の信頼性をより向上させるために、さらに慎重な工夫検討を重ねることが今後の不可欠な課題である。

【註】

- (1) 『音楽教育研究 その諸相』 黒潮社(1990)
p. 28~41
- (2) この単旋律課題②は『教員養成大学音楽専攻学生の音楽能力測定と比較評価』における聴音課題①と同一課題であり、東京芸術大学1977年度クラス分けテスト課題①である。
- (3) 評価測定作業には、島根大学教育学部の大学院生、学生、研究生の協力を得た。
- (4) 「週平均4時間」は週にレッスン1回の他毎日30分程度自習する場合を目安とした。
- (5) サイズが5%未満の分野（弦楽器、箏、作曲等）は項目から除いた。また合奏については学習内容が不明確で他の分野（楽器）との重複も懸念されるため同じく除外した。
- (6) 『教員養成大学音楽専攻学生の音楽能力測定と比較評価』 p. 36~37